

白山ふるさと文学賞

第九回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生5・6年の部 優秀賞

みんなのことを考えるお母さん

松任小学校五年

前田まえだ

千和ちより

私のお母さんは、やさしくて人のことを考えていると思います。

私が算数の宿題が分からない時に、お母さんはしっかり説明してくれます。一回の説明ではわからなかったときは、口で言うだけでなく、紙に書いてわかりやすく説明してくれるし、私になつとくするまで何回も説明してくれます。私が「分かった。」と言っても、お母さんは「本当に分かったの。」と聞いてきます。なので、私のことを考えてくれているのかなと思いました。

お母さんは私のこと、妹、弟のことも考えないといけません。妹の宿題を見たり、弟の面どうを見たり、ほかにもいろいろなことをしているし、家の家事もしています。お母さんは家事などをしていて自由な時間が少ししかないのです。お母さんはすごく大変だと思って、お母さんのことを少しでも助けてあげたいと思います。でも、いつもお母さんにたよってしまうし、手伝う時間があっても手伝う気になれません。自分のことだけは、しっかり自分でできるようにしたいと思います。

なやみごとがあると、お母さんはいっしょに、相談にのってくれます。友達にことわる時はどう言えばいいかな、気持ちにならないかなど、友達にどう話せばいいかをよく聞きます。するとお母さんは、たくさんの意見やアイディアを言ってくれます。お母さんが言ってくれたことを使って遊んでいる所にまぜてもらったこともあります。言ってくれたおかげで、友達と話したり、遊んでいる所に入ったたりするのが前よりも話しやすく、入りやすくなりました。なのでお母さんはすごい人でたよりになると思いました。

お母さんは体のことをすごく心配してくれます。二さいくらの時に、まゆげにけっかんしゅができた時がありました。受け入れてくれる病院をさがしたけど、全然見つかりませんでした。だけど一生けん命探してくれて、すごく心配してくれました。お母さんは、「あの時、すごい心配したんだよ。」と教えてくれて、みんなすごく心配していたことがわかりました。お母さんも家族も自分のことを大切にしていることがわかって、

うれしくなりました。

お母さんは、学校のことなどをいつも気にかけてくれています。「ノートはまだある。」など持ち物のことをよく気にかけてくれます。それで気づくこともよくあります。それに、「ノート買いに行きたい。」といった三日間くらいの間に買いに行ってくれます。買いに行ったら、他の物も足りなくないか心配してくれます。そのおかげで、足りなくなりそうなものが早めに買って、安心できます。お母さんから言ってくれることで、持ち物がかくにんできるので、言ってくれるのがすごく助かります。こんな所で助けてもらっているのです、私もお母さんのことを助けたいです。自分以外の人も気にかけることができる人になりたいです。

私はピアノを習っていて、うまくできるとお母さんはほめてくれます。私が練習をしてひき終わった後に、「前よりリズム良くなったね。」とほめてくれたことがあります。ほめてくれたので、練習してうまくなっているんだなと思つて、うれしくなりました。ほめてもらつて、自分に自信を持てるようになったので、ほめることはすごいことだと思いました。お母さんみたいに私も、小さいことでも人のことを、ほめてあげたいと思いました。ほめること以外にも、言ってもらつてうれしくなる言葉や、いい気持ちになるような言葉を言ってみんながいい気持ちになつたらいいなと思いました。

お母さんは、面どうくさいこともしつかりやってくれます。昼ご飯に食べたいものがみんなバラバラだった時がありました。全部作るの大変だと思うのに、お母さんは全部作ってくれました。大変なのに作ってくれたので、とてもうれしかったです。服がよごれたら、手洗いでいいねいに洗ってくれます。大変なことでも、がんばることは大切なことだと思えました。

お母さんは、家事などで大変なのに私の話を聞いたり、私のことを助けてくれたりしてくれます。そんなお母さんが私はとてもすごいと思います。私はお母さんのことが大好きです。なので、お母さんの手伝いを

して、自分のことは自分でして、お母さんを楽にしておあげ、自由な時間を過ごさせてあげたいです。今やれることを一生けん命やりたいです。お母さんみたいに、やさしくできて人のことを考えられる人になりたいと思いました。

